



磐田市立総合病院

スズキ ワグナー ユージ さん

看護師経験：12年（救急看護認定看護師）

特定行為取得区分

術中麻酔管理領域パッケージ

（2024年9月取得、救命救急センターで活動開始）



受講の動機・きっかけは…

夜間や休日など医師が不在な時間帯は多くありますが、看護師は24時間必ず患者のそばにいます。看護師が医師の指示を待つことなく、規定の手順書に従って人工呼吸器からの早期離脱を検討したり、タイムリーに実施すべき医療行為が速やかにできたりすれば、患者にとって利益が多いと常々感じていました。特定行為研修が開始され、1人でも多くの看護師が特定行為研修を修了すればより高度な医療、看護が提供できると思います。患者にとって最善の医療は何か、医師のみならず多職種で検討していける現場を目指して、まずは自分が率先して働きたいと考え、受講する事を決めました。



やりがい…

受講したことで、臨床推論や医学的な知識を学ぶことが出来ました。患者状態をより深く考えてアセスメントできることにやりがいを感じています。特定行為研修修了後、外科の医師から「人工呼吸器から離脱したい患者がいるから相談したい」といわれたことがありました。その医師は特定行為看護師の役割を理解し、私の意見を尊重し人工呼吸器離脱と抜管に向けたトライアルを共同して実施できました。患者はその日のうちに抜管することができ、特定行為研修を受講してよかったと実感しました。

今後は研修で学んだ知識・技術をもとに多職種で治療に介入し、患者の人工呼吸器装着日数の短縮に寄与できるように関わっていきたいと考えています。



みなさんに伝えたいこと

特定行為研修は、長い時間と労力をかける必要があるため、休日はしっかり休息をとってリフレッシュすることが大事です。私は、休日に沢山寝て沢山食べることを意識して過ごしています。また、ジムでトレーニングして汗を流すことでストレスを発散し、毎回気持ちをリセットして仕事や研修に取り組んでいます。自分の健康に気を遣えなければ、患者の健康を考えることができないと思っているので、心身共に健康であり続けることを意識しています。

Interview

磐田市立総合病院

萩原 義久 さん

看護師経験：16年（手術看護認定看護師）

特定行為取得区分

術中麻酔管理領域パッケージ
（2024年9月取得、手術室で活動開始）



受講の動機・きっかけは…

看護師経験 16 年のうちの大半を手術現場で過ごし、もっと手術看護を学びたいと考えて手術看護認定看護師の道を選びました。認定看護師教育の中で、外科医師、麻酔科医師の考え方を多く学んだ後に手術センターで働きはじめると、看護師の視点以上に広く患者さんの状態が見えるようになりました。その経験の延長で、もっと多くの知識を得たい、麻酔科医師や外科医師との共働関係を強くしたいと思い始めたことが、特定行為研修受講のきっかけでした。



やりがいは…

一般の看護師にはできない手技ができるということはもちろんですが、学んだ医学的知識を活用して、患者さんの状態をアセスメントし、原因と対応を考えることができることにやりがいを感じています。手術センターは麻酔と手術侵襲による急激な全身状態の変化が日常的に起こる現場であり、学んだ知識や技術を活かして、医師や患者さんに還元できていることを実感しています。

例えば、今までは医師の指示を受けて行動していましたが、患者さんの変化や今、何が起きているのかを予測して医師と一緒に考えて協働することにやりがいを感じることは大きな変化だと思います。



1日のスケジュール

手術室の看護師として勤務しながら、担当する患者さんの中で、自分が対応できる行為がある場合は、動脈圧ラインの確保、動脈採血、電解質輸液の調整などを実施しています。



みなさんに伝えたいこと

特定行為ができることが一番のメリットではないと思っています。実際に技術としてできる機会がなくても、学んだ知識を活かして医療者間、医療者 - 患者間の橋渡しができることも特定看護師として大事なことだと思います。また、あくまで研修を受け、現場で活躍するのは自分自身となります。自分が継続できるだけの興味とやる気をもって、学べる環境を楽しんで研修に励んでいただきたいと思います

組織ビジョン & 応援メッセージ



工藤 ゆかり 看護部長

当院の看護部は「地域住民に信頼される安全で質の高い看護を提供する」という理念のもと、患者によりよい、安心安全で良質な看護の提供を目指しています。当院には他機関での特定行為研修修了者（以後、特定看護師）もいますが、現在、病棟や外来に配属されているため、今後の活動の場の在り方を模索中です。そのような中、特定行為指定研修機関として 2023 年 10 月に一期生の研修を開始しました。自施設の 2 名の看護師が 12 ヶ月間の院内での研修を無事修了しました。

中東遠圏域で急性期医療を担う当院は、患者の状態に合わせてタイムリーに高度かつ専門的知識や技術が求められます。特定看護師にはフィジカルアセスメントに基づい

た臨床推論を進め、患者の状態を的確に把握して、よりよい看護ケアを実践して欲しいと思っています。チーム医療を推進するためにも、特定看護師が中心となって質の高い医療・看護を提供し、スタッフの実践能力の向上ややりがいに繋がっていくことを願っています。

また、日本看護協会の特定行為研修制度に対する考え方にある「看護師の専門性をさらに発揮し、少子超高齢社会における国民のニーズに積極的に応えていく」ように、今後は他施設からの研修生を受け入れる事も視野に入れ、研修内容の検討を行い、地域の看護人材の育成にも貢献したいと考えています。

最終目標は、各病棟の各勤務帯に特定看護師を 1 名ずつ配置することです。それが実現すれば、さらに安全で質の高い看護の提供が可能になると考えています。それまでは各病棟に 1 名の特定看護師の配置を目標に研修を行っていかうと思います。

最終目標は、各病棟の各勤務帯に特定看護師を 1 名ずつ配置することです。それが実現すれば、さらに安全で質の高い看護の提供が可能になると考えています。それまでは各病棟に 1 名の特定看護師の配置を目標に研修を行っていかうと思います。

山口 昌一 第 3 医療部副部長・麻酔科部長

昨今、医療の安全性や質の向上のためチーム医療が推進されています。手術医療はチーム医療の代表例でもあります。自治体病院での手術中の全身管理は、各々の全身麻酔に対して 1 人の麻酔科医が担っていることが多いため、手術室全体の状況を把握するのが困難なことがあります。今年、当院の手術室に術中麻酔管理パッケージの研修を修了した特定看護師が誕生しました。今後、私たち麻酔科医と協働することで、より安全安心な全身管理が実現でき、

周術期の安全性や質の向上につながることを期待しています。また、手術室以外においてもチーム医療において、チームのマネジメントやコーディネートを含め、中心的役割を担う特定看護師に期待しています。

